

2020（令和2）年度北海道来訪者満足度調査

北海道観光経済波及効果分析
報告書

2021（令和3）年6月改定版
（観光経済波及効果推計の改定）

公益社団法人 北海道観光振興機構

INDEX

観光経済波及効果推計

1	本調査について	P.3
2	与件の整理	P.4
3	道内観光消費額の推計	P.9
4	観光がもたらす経済波及効果の分析	P.11

1 本調査について

公益社団法人北海道観光振興機構は、「2020（令和2）年度北海道来訪者満足度調査・観光産業経済効果調査事業報告書」（2021（令和3）年3月版）を公表し、2020（令和2）年度の北海道の観光産業経済効果を推計したところであるが、この度、推計に用いる年間観光客数をより実態値に近い数字に置き換え、推計を行ったため、改訂版として公表する。

尚、2020（令和2）年度に北海道内を観光した道内客、道外客及び来道意向のある外国人に対して行ったアンケート調査の結果である北海道来訪者満足度調査の内容（前編「Ⅲ 道内客、道外客調査」及び「Ⅳ 海外における来道意向等調査」）については、「2020（令和2）年度北海道来訪者満足度調査・観光産業経済効果調査事業報告書」（2021（令和3）年3月版）と変わらない。

（1）変更点

- 道内総観光消費額の推計に用いる観光消費単価は変更なし
- 道内総観光消費額の推計に用いる観光客数は、2020（令和2）年度第3四半期北海道観光入込客数調査（北海道経済部観光局）の公表及び2020（令和2）年度輸送機関別来道者数（北海道観光振興機構）がとりまとまったことから、第3・第4四半期及び年間数値を変更している

	本改訂版		2021（令和3）年3月版	
	道内客	道外客	道内客	道外客
第3四半期観光客数	528万人	73万人	401万人	72万人
第4四半期観光客数	404万人	35万人	376万人	44万人
年間観光客数	3,099万人	211万人	2,945万人	219万人

注）道内客の年間客数には「その他」旅行の90万人を含む

- 上記を踏まえ、道内の総観光消費額及び経済波及効果について、下記（2）、（3）のとおり変更する

（2）総観光消費額について

	本改訂版	2021（令和3）年3月版
道内客の総観光消費額	2,925億円	2,674億円
道外客の総観光消費額	1,429億円	1,481億円
道内総観光消費額	4,354億円	4,155億円

（3）経済波及効果について

	本改訂版	2021（令和3）年3月版
生産誘発額	636,412百万円	606,905百万円
粗付加価値誘発額	366,760百万円	368,901百万円
雇用者所得誘発額	220,539百万円	210,285百万円
雇用誘発数	61,850人	58,970人
税収効果	16,137百万円	15,388百万円
観光GDP	2,27600百万円	217,131百万円

2 与件の整理

（1）観光消費額

①単純集計による道内消費額（パッケージ料金除く）

- パッケージ代金を除く道内客・道外客の道内消費額は下表ようになる。道内客のうち、日帰り客の観光消費単価は6,013円、宿泊客は24,823円、道外客の道内消費額は55,636円である。
- 観光消費の内訳は①交通費・②宿泊費・③飲食費・④買い物費・⑤娯楽等サービス費、⑥その他の費用に区分（昨年は⑤⑥をその他としている）して把握している。

■ 分野別の道内平均支出額（単純集計） ※各分野支出額と合計額欄が一致するサンプルのみ使用

		道内客		道外客全体	外国人客
		日帰り	宿泊		
サンプル数		798	680	1,538	-
合計		6,013	24,823	55,636	-
内 訳 （ 円 ）	①交通費	1,880	5,517	10,789	-
	②宿泊費	0	10,228	15,057	-
	③飲食費	1,698	4,725	14,701	-
	④買物代	1,924	3,127	10,736	-
	⑤娯楽等サービス費	442	1,125	3,883	-
	⑥その他	69	101	471	-
構 成 比 （ ％ ）	①交通費	31.3	22.2	19.4	-
	②宿泊費	0.0	41.2	27.1	-
	③飲食費	28.2	19.0	26.4	-
	④買物代	32.0	12.6	19.3	-
	⑤娯楽等サービス費	7.4	4.5	7.0	-
	⑥その他	1.1	0.4	0.8	-

注：今年度は「各分野支出の回答」と「合計欄の回答」が一致したものだけを集計した結果である。この集計数は道内客は総サンプル数1,566件のうち1,478件（94.4％）、道外客は1,660件のうち1,538件（92.7％）である。

②パッケージ料金に含まれる道内消費分等を含む消費額／投入単価

観光客が道内で消費する金額は、上記①に加えてパッケージ旅行者の場合は、パッケージ料金に含まれる飲食や宿泊費、交通費などの道内留保分を加わることになる。次頁表は、これらを加味した場合の消費額である。

- パッケージ料金に含まれる道内消費分を考慮した道内客・道外客の道内消費額は次頁表のようになる。道内客のうち、日帰り客の観光消費単価はパッケージ利用者がいなかったため、上記と同額の6,012円*で、昨年（8,120円）より26.0％も減少している。*上記表と同額であるが四捨五入で微差が生じている。
- 道内の宿泊客は26,985円で、これも昨年（32,594円）より17.2％減であった。
- 道外客は67,733円で、昨年（70,773円）より4.3％減であったが、道内客より減少幅は小さい。
- 観光消費の内訳では、道内客では日帰り、宿泊客とも「交通費」、「買い物代」、「飲食費」の落ち込みが目立った。
- 道外客では「交通費」の落ち込みが目立ったが、それ以外の分野で際立った減少はなく、飲食費などは9％程度の増となっている。

■ パッケージ料金に含まれる道内消費分等を考慮した消費額／投入単価

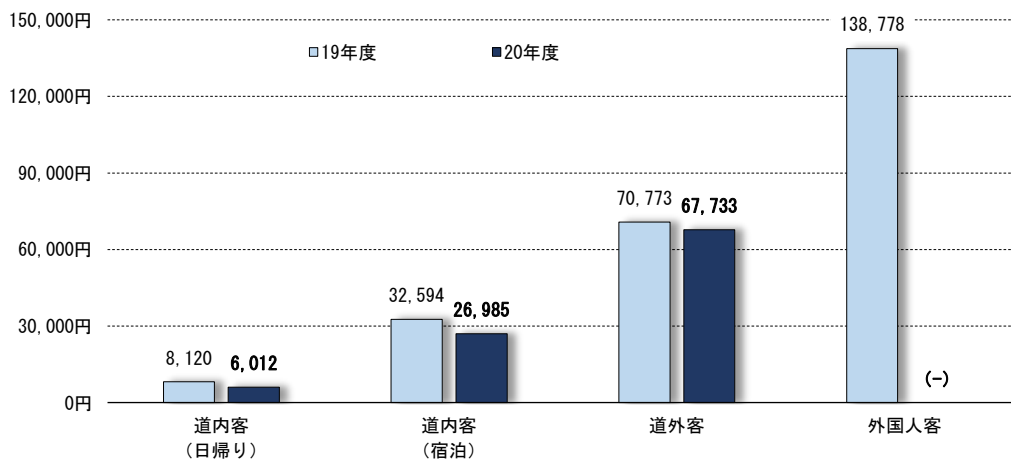
		道内容		道外客全体	外国人客
		日帰り	宿泊		
サンプル数		798	680	1,538	-
消費額合計（円）		6,012	26,985	67,733	-
内訳 （円）	①交通費	1,880	6,135	14,646	-
	②宿泊費	0	11,185	21,946	-
	③飲食費	1,697	5,038	15,511	-
	④買物代	1,924	3,303	10,746	-
	⑤娯楽等サービス費	442	1,218	4,418	-
	⑥その他	69	107	466	-
昨年度 （円）	消費額合計（円）	8,120	32,594	70,773	138,778
	①交通費	2,781	8,719	20,855	42,134
	②宿泊費	0	12,091	21,337	39,958
	③飲食費	2,017	5,917	14,264	22,925
	④買物代	2,953	4,655	11,372	25,309
	⑤その他	369	1,213	2,946	8,452
増減率	消費額合計（円）	▲ 26.0%	▲ 17.2%	▲ 4.3%	
	①交通費	▲ 32.4%	▲ 29.6%	▲ 29.8%	-
	②宿泊費	-	▲ 7.5%	2.9%	-
	③飲食費	▲ 15.9%	▲ 14.9%	8.7%	-
	④買物代	▲ 34.8%	▲ 29.1%	▲ 5.5%	-
	⑤その他・娯楽サービス	38.5%	9.2%	65.8%	-

注1：昨年度の「⑤その他」は、今年度「⑤娯楽等サービス」と「⑥その他」に分かれている。従って、増減率の⑤その他・娯楽等サービス欄は昨年度の「⑤その他」と今年度の「⑤娯楽等サービス+⑥その他」による算出である。

注2：端数処理等で分野計と合計欄が一致しない場合がある

注3：昨年度、今年度も「波及効果推計」に用いる最終投入単価の数値である

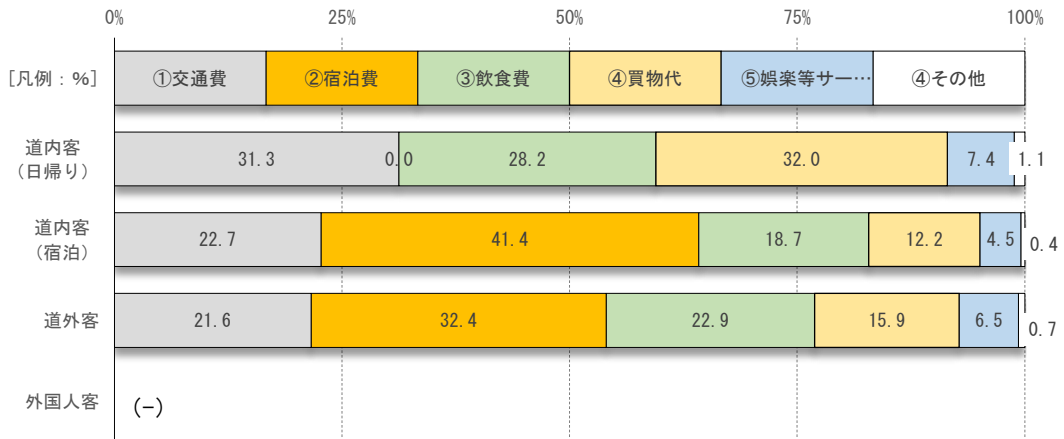
■ パッケージ料金に含まれる道内消費分等を考慮した消費総額の推移



（次頁図参照）

- 道内容・道外客の各調査で得られた消費額の分野別支出構成比は下図のようになる。
- 道内日帰り客では「交通費」と「買い物代」が1/3ずつで、3割弱が「飲食費」である。
- 道内宿泊客は4割が「宿泊費」に充てられ、「交通費」、「飲食費」の順である。「買い物費」の割合は、日帰り客の半分程度に留まる。
- 来道者（道外客）は1/3が「宿泊費」に充てられ、「飲食費」と「交通費」が1/4ずつを占める。

■パッケージ料金に含まれる道内消費分を考慮した分野別消費額の構成比



【参考】

対象とした観光客は、居住地・旅行形態、さらに消費方法もパッケージツアー内消費・パッケージ以外の消費などの組合せによって構成されている。また、パッケージ費用の分野別構成は把握困難であり、過年度調査を参考に区分推計している。経済波及効果の推計に用いる消費額は、こうした考え方に基づくものであり、道外に帰属する消費、道外消費であるが道内に一部帰属する消費などを勘案しているため、自ずと「アンケートで回答される消費額」とは異なっていることに留意下さい。

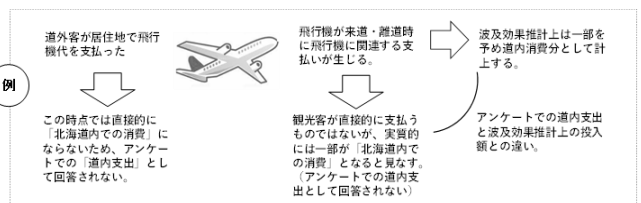
■観光消費額設定の考え方

利用者区分		旅行形態		旅行会社 手数料	交通費			宿泊費	食事費	買い物費	その他	旅行費用算出	【－】は見込まない支出項目
		費用区分			海外分	道外分	道内分						パッケージツアーの処理
道内客	日帰り客	パッケージ利用者	パッケージ内	○	－	－	○	－	○	－	○	3区分ごとに費用を算出し、各旅行者数に応じて加重平均値を求めている。	旅行会社手数料は道内旅行であるため全額組み込んでいる。
			パッケージ外	－	－	－	○	○	○	○			
		パッケージ非利用者	－	－	－	○	－	○	○	○			
	宿泊客	パッケージ利用者	パッケージ内	○	－	－	○	○	－	○	3区分ごとに費用を算出し、各旅行者数に応じて加重平均値を求めている。		
			パッケージ外	－	－	－	○		○	○		○	
		パッケージ非利用者	－	－	－	○	○	○	○	○			
	その他の旅行		－	－	－	○	○	○	○	○	「その他」の旅行(道外、海外)に伴う道内支出は、本調査では把握していないため、第6回調査(14,695円)時より概ね8%増と総額設定し、それを(第5回調査参考)分野別に配分。		
道外客	パッケージ利用者	パッケージ内	(○)	(○)	○	○	○	○	－	○	3区分ごとに費用を算出し、各旅行者数に応じて加重平均値を求めている。	旅行会社手数料は発地に属するが一部を道内L.O等に回るものとして計上。交通費のうち航空機関連の一部を道内帰属分として計上。宿泊費は計算の便宜上ツアー費内・外に分離されている。	
		パッケージ外	－	－	－	○		○	○	○			○
		パッケージ非利用者	－	－	－	○		○	○	○			○
外国人客	パッケージ利用者	パッケージ内	(○)	(○)	○	○	○	○	－	○	3区分ごとに費用を算出し、各旅行者数に応じて加重平均値を求めている。	旅行会社手数料は発地に属するが一部を道内L.O等に回るものとして計上。交通費のうち航空機関連の一部を道内帰属分として計上。宿泊費は計算の便宜上ツアー費内・外に分離されている。	
		パッケージ外	－	－	－	○		○	○	○			○
	パッケージ非利用者	－	－	－	○	○	○	○	○	○			

例) 道外客の消費額設定の考え方

	単純集計上での道内直接消費額	※ツアー客のみ代金の配分額加算	最終投入に用いた消費額 ※その他・手数料等調整
①交通費	10,789		14,646
②宿泊費	15,057		21,946
③飲食費	14,701		15,511
④買い物費	10,736		10,746
⑤娯楽等	3,883		4,418
⑥その他	471		466
合 計	55,637		67,733

観光客数に乘じて消費総額推計



パッケージツアー代金	47,802	道内分	37,716
		道外留保分	10,086

※修正消費額、最終消費額はツアー代金配分額を含む加重平均額である。小数点以下のまるめにより合計額は一致しない場合がある

（２）観光入込客数の設定

従来の観光客数の設定は、本事業終了時点で入込数が確定している前々年度の数値を用いている。しかし、令和2年度においてはコロナ禍で大きな観光入込変動を反映させるため、当該年度（2020年度：令和2年度）の入込客数を用いることとした。

但し、当該年度の入込客数統計は「第3四半期」までが公表されるに留まることから、年度を通じた入込客数を「第3四半期の動向や各種交通機関利用数など」から推定した。

①令和2年度第3四半期までの観光入込客数

- コロナ禍での道内観光入込客数は大きく減少し、総計で前年（4,525万人）から39%減の2,782万人に留まった。
- 道内客は日帰り、宿泊客を合わせて2,606万人で、前年（3,826万人）を大きく下回り、減少率は32%となる。特に宿泊客の落ち込み（50%減）が目立った。
- 道外客も176万人で前年（507万人）の35%程度しか来道していない。
- なお、外国人は入国規制等により「ゼロ」であった。

■ 第1～第3四半期観光入込客数（北海道経済部観光局）

	(万人)	道内客				道外客			外国人			総計
		日帰り	宿泊	その他	合計	日帰り	宿泊	合計	日帰り	宿泊	合計	
確定値	第1四半期 (4～6月)	H30年度	1,102	243	1,345	2	142	144	0	62	62	1,551
		R1年度	1,116	244	1,360	2	153	155	0	65	65	1,580
		R2年度	766	52	818	1	9	10	0	0	0	828
	第2四半期 (7～9月)	H30年度	1,495	252	1,747	9	186	195	0	74	74	2,016
		R1年度	1,523	272	1,795	9	203	212	0	68	68	2,075
		R2年度	1,093	167	1,260	3	90	93	0	0	0	1,353
	第3四半期 (10～12月)	H30年度	452	244	696	5	130	135	0	67	67	898
		R1年度	439	232	671	6	134	140	0	59	59	870
		R2年度	375	153	528	4	69	73	0	0	0	601
	第1～第3 四半期合計	H30年度	3,049	739	3,788	16	458	474	0	203	203	4,465
		R1年度	3,078	748	3,826	17	490	507	0	192	192	4,525
		R2年度	2,234	372	2,606	8	168	176	0	0	0	2,782
	第1四半期前年比		68.6%	21.3%	60.1%	50.0%	5.9%	6.5%	-	0.0%	0.0%	52.4%
	第2四半期前年比		71.8%	61.4%	70.2%	33.3%	44.3%	43.9%	-	0.0%	0.0%	65.2%
	第3四半期前年比		85.4%	65.9%	78.7%	66.7%	51.5%	52.1%	-	0.0%	0.0%	69.1%
	【第1～3四半期計】前年比		72.6%	49.7%	68.1%	47.1%	34.3%	34.7%	-	0.0%	0.0%	61.3%

注）四捨五入の関係で各項目と合計値が一致しない場合がある。

②交通機関別来道者数の概況

- 来道手段（航空機・JR・フェリー）の利用者数は、第1四半期は前年の僅か14%（86%減）程度で、第2四半期は前年の36%（64%減）程度、第3四半期は前年の半数程度であり、上記の道外観光客数と軌を一にしている。
- その後、第4四半期では前年の41%（59%減）程度となり、その落ち込みは継続している。

■ 交通機関別来道者数（北海道観光振興機構まとめ）

	2019年度（人）					2020年度（人）					対前年比（%）	
	航空機	JR	フェリー	合計	四半期計	航空機	JR	フェリー	合計	四半期計	各月	四半期
4月	870,330	82,300	94,835	1,047,465	3,446,970	110,804	8,200	35,503	154,507	481,391	14.8	14.0
5月	1,014,758	84,000	98,743	1,197,501		64,167	5,700	27,230	97,097		8.1	
6月	1,048,487	76,200	77,317	1,202,004		179,744	12,200	37,844	229,788		19.1	
7月	1,110,237	104,100	112,582	1,326,919	4,167,825	340,815	20,400	53,442	414,657	1,515,462	31.2	36.4
8月	1,267,952	93,700	158,831	1,520,483		430,365	28,400	72,034	530,799		34.9	
9月	1,159,813	71,000	89,610	1,320,423		471,193	42,500	56,313	570,006		43.2	
10月	1,036,934	59,800	69,051	1,165,785	3,291,674	589,346	47,800	51,545	688,691	1,665,342	59.1	50.6
11月	973,424	65,700	54,975	1,094,099		485,300	45,800	39,948	571,048		52.2	
12月	948,906	25,500	57,385	1,031,791		341,783	25,500	38,320	405,603		39.3	
1月	914,102	50,300	43,690	1,008,092	2,313,897	200,761	13,600	27,209	241,570	953,120	24.0	41.2
2月	838,754	44,300	38,810	921,864		207,260	11,700	27,727	246,687		26.8	
3月	326,536	17,000	40,406	383,942		397,018	23,200	44,646	464,864		121.1	
年度計	11,510,233	773,900	936,233	13,220,366	13,220,366	3,818,556	285,000	511,759	4,615,315	4,615,315	34.9	34.9

③令和2年度中の最終入込客数の推定

ア）第3四半期までの動向からの推察

- 道内日帰り客の第1～第3四半期までの入込客数は、前年比72.6%で推移している。第4四半期においては、同水準で推移するものと推定する。
- 同じく道内宿泊客の第4四半期についても、第1～第3四半期までの入込客数前年比49.7%で推移するものと推定する。
- 道外客は交通機関の輸送実績と軌を一にしている。宿泊客の数値を基準にすると、第1四半期は入込客数が前年の6%であるのに対し、輸送実績も15%。第2四半期は入込客数44%、輸送実績36%、第3四半期は入込客数52%、輸送実績51%となっている。道外客はこの点に着目し、第4四半期の輸送実績が41%程度となったことから入込客数も41%程度と推定し、年度計では概ね前年の36%程度で推移するものと推定する。
- これらから、通年の観光入込客数は《道内日帰り客2,545万人：前年の72.6%》 《道内宿泊客464万人：前年の49.7%》 《道外客211万人：前年の35.6%》と推定する。
- 外国人客は入管統計により令和2年度は「ゼロ」とする。
- この経済波及効果では道民の道外への観光旅行等に伴う旅行消費も取り上げており、昨年調査では各種の推計から268万人と見立てていた。今年度は“道外客の減少動向と類似したものとなる”と仮定し、90万人（前年の33%程度）を見込んだ。

■ 令和2年度の観光入込客数の推定

		(万人)	道内客				道外客			外国人			総計
			日帰り	宿泊	その他	合計	日帰り	宿泊	合計	日帰り	宿泊	合計	
確定値	第1四半期 (4～6月)	H30年度	1,102	243		1,345	2	142	144	0	62	62	1,551
		R1年度	1,116	244		1,360	2	153	155	0	65	65	1,580
		R2年度	766	52		818	1	9	10	0	0	0	828
	第2四半期 (7～9月)	H30年度	1,495	252		1,747	9	186	195	0	74	74	2,016
		R1年度	1,523	272		1,795	9	203	212	0	68	68	2,075
		R2年度	1,093	167		1,260	3	90	93	0	0	0	1,353
	第3四半期 (10～12月)	H30年度	452	244	－	696	5	130	135	0	67	67	898
		R1年度	439	232	－	671	6	134	140	0	59	59	870
		R2年度	375	153	－	528	4	69	73	0	0	0	601
	第1～第3 四半期合計	H30年度	3,049	739	－	3,788	16	458	474	0	203	203	4,465
		R1年度	3,078	748	0	3,826	17	490	507	0	192	192	4,525
		R2年度	2,234	372	0	2,606	8	168	176	0	0	0	2,782
	第1四半期前年比		68.6%	21.3%	－	60.1%	50.0%	5.9%	6.5%	－	0.0%	0.0%	52.4%
	第2四半期前年比		71.8%	61.4%	－	70.2%	33.3%	44.3%	43.9%	－	0.0%	0.0%	65.2%
	第3四半期前年比		85.4%	65.9%	－	78.7%	66.7%	51.5%	52.1%	－	0.0%	0.0%	69.1%
	【第1～3四半期計】前年比		72.6%	49.7%	－	68.1%	47.1%	34.3%	34.7%	－	0.0%	0.0%	61.3%

推計値	第4四半期前年比見込み		72.6%	49.7%	－	65.7%	41.2%	41.2%	41.2%	－	0.0%	0.0%	58.3%
	第4四半期 (1～3月)	H30年度	580	233	－	813	3	130	133	0	109	109	1,055
		R1年度	429	186	－	615	2	83	85	0	53	53	753
		R2年度	311	92	－	404	1	34	35	0	0	0	439
	年度合計	H30年度	3,629	972	262	4,601	19	588	607	0	312	312	5,520
		R1年度	3,507	934	268	4,441	19	573	592	0	245	245	5,278
		R2年度	2,545	464	90	3,099	9	202	211	0	0	0	3,310
	【年間合計】前年比		72.6%	49.7%	33.6%	69.8%	46.4%	35.3%	35.6%	－	0.0%	0.0%	62.7%

注）四捨五入のため各項目値と合計が一致しない場合がある

3 道内観光消費額の推計

（１）年間観光客数

- 今回調査では前項にあるコロナ禍の令和2年度の推定値を用いており、今年度の需要額及び波及効果の推計は、あくまでも『この入込数を前提にすれば』の概念となる。
- なお、前回使用した観光入込客数に比して、道内客は計1,770万人の減、道外客は396万人の減、外国人は約311万人が全て蒸発した形となっている。

■道内観光入込客数（実人数）

		前回調査	今回調査	増減	備 考
		平成30年度 (2018年4月 ～2019年3月)	令和2年度 推定		
道内客	日帰り客	36,290,000	25,450,000	-10,840,000	1)観光客数の前回は「北海道観光入込客数調査報告書（平成30年度／2018年度）」（北海道経済部観光局）の観光客数（実人数）を用いている。 2)同じく、今回分については第1～3四半期は「北海道観光入込客数調査報告書（令和2年度（2020年度）第1～3四半期）」を用いているが、未公表の第4四半期分については、道内客分は第3四半期までの推移を、道外客分は輸送機関別来道者数等を参考にした推計値である。 3)道内の「その他」は道外や海外への旅行に関わるものであるが、本事業では調査対象となっていない。このため、前回調査では（令和元年）第5回調査から年率0.3%程度増、新千歳空港からの2018年度日本人出国者数18万人をふまえて設定した。今回は「道外客の減少状況」等を参考に設定した。
	宿泊客	9,720,000	4,640,000	-5,080,000	
	その他	2,680,000	900,000	-1,780,000	
	全体	48,690,000	30,990,000	-17,700,000	
道外客		6,070,000	2,110,000	-3,960,000	
外国人		3,115,000	0	-3,115,000	

（２）総観光消費額の推計

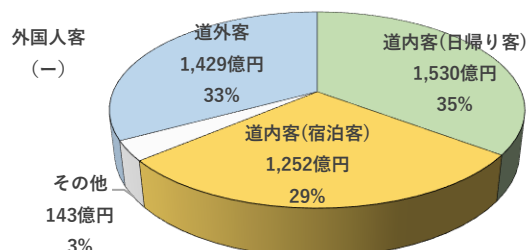
- 先の観光消費単価と前項の観光入込客数（実人数）を乗じて、下表のように総観光消費額が推計された。
- 総観光消費額は4,354億円程度となり、前年（1兆5,159億円）の29%程度となった。昨年度は4,300億円以上あった外国人需要の蒸発、道内宿泊客・道外客数の大幅減などが大きな影響を与えている。
- 外国人客がゼロ状態、道外客の減少などから、道内観光客（日帰り・宿泊客）が全体の64%（計2,782億円）を占め、これに「その他（道外・海外旅行での道内支出分）」の143億円を加えると、道民支出額は計67%＝計2,925億円となる。道外客は33%程度の1,429億円である。

■道内観光総消費額

		道内客				道外客	外国人	合計
		日帰り客	宿泊客	その他	合計			
a	年間観光客数 (設定)	今回	2,545万人	464万人	90万人	3,099万人	211万人	3,310万人
		前回	3,629万人	972万人	268万人	4,869万人	607万人	10,657万人
		増減	▲1,084万人	▲508万人	▲178万人	▲1,770万人	▲396万人	▲7,347万人
b	道内観光消費 額単価(推計用調 整値) (1人)	今回	6,012円	26,985円	15,853円	—	67,733円	—
		前回	8,120円	32,594円	15,853円	—	70,773円	138,778円
		増減	▲2,108円	▲5,609円	0	—	▲3,040円	—
c	道内観光 総消費額 (a×b)	今回	1,530億円	1,252億円	143億円	2,925億円	1,429億円	4,354億円
		前回	2,947億円	3,168億円	425億円	6,540億円	4,323億円	15,159億円
		増減	▲1,417億円	▲1,916億円	▲282億円	▲3,615億円	▲2,867億円	▲10,805億円
構成比 (%)		今回	35.1%	28.8%	3.3%	67.2%	32.8%	100.0%
		前回	19.4%	20.9%	2.8%	43.1%	28.5%	100.0%

注）四捨五入の関係で各項目と合計値が一致しない場合がある。

■道内観光総消費額の区分別構成



（３）分野別総消費額の整理

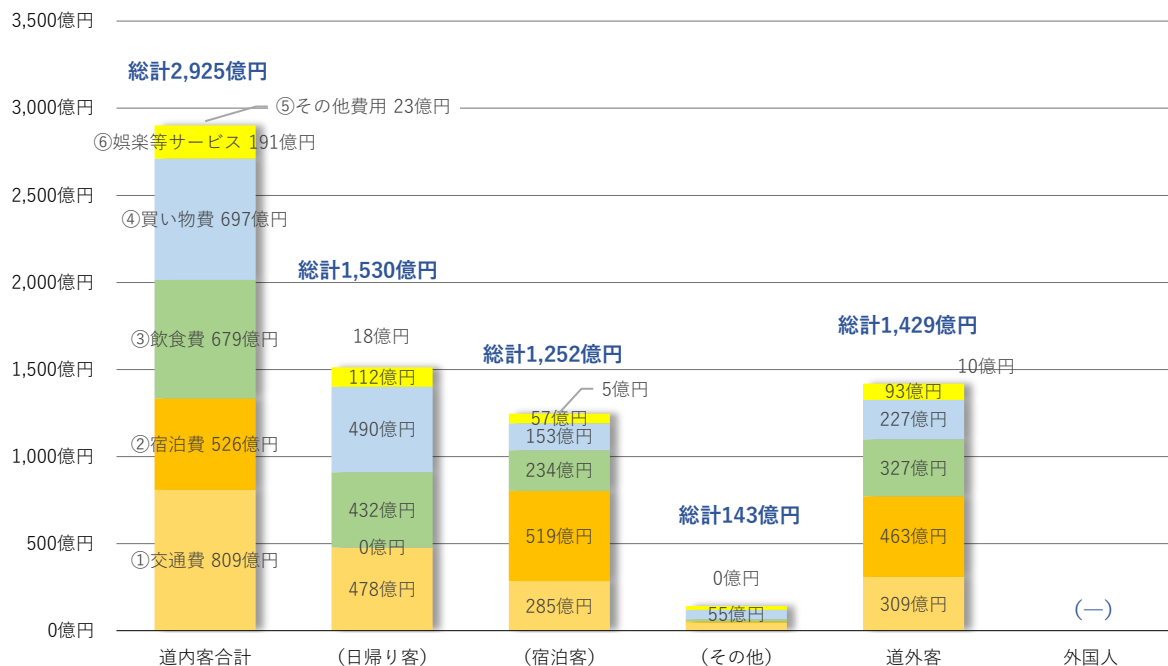
■ 観光客の総観光消費額4,354億円の支出分野別内訳は下表・下図となる。

■ 分野別観光消費額

			観光入込客数	支出内訳						合計
				①交通費	②宿泊費	③飲食費	④買い物費	⑥娯楽等サービス	⑤その他費用	
道内客	日帰り客	今回	2,545万人	478億円	0億円	432億円	490億円	112億円	18億円	1,530億円
		前回	3,629万人	1,009億円	0億円	732億円	1,072億円	134億円		2,947億円
		増減	▲ 1,084万人	▲ 531億円	0	▲ 300億円	▲ 582億円	▲ 4億円		▲ 1,417億円
	宿泊客	今回	464万人	285億円	519億円	234億円	153億円	57億円	5億円	1,252億円
		前回	972万人	848億円	1,175億円	575億円	452億円	118億円		3,168億円
		増減	▲ 508万人	▲ 563億円	▲ 656億円	▲ 341億円	▲ 299億円	▲ 57億円		▲ 1,916億円
	その他	今回	90万人	46億円	7億円	13億円	55億円	22億円	0億円	143億円
		前回	268万人	137億円	21億円	39億円	163億円	66億円		425億円
		増減	▲ 178万人	▲ 91億円	▲ 14億円	▲ 26億円	▲ 108億円	▲ 44億円		▲ 282億円
	合計	今回	3,099万人	809億円	526億円	679億円	697億円	191億円	23億円	2,925億円
		前回	4,869万人	1,994億円	1,196億円	1,346億円	1,687億円	317億円		6,540億円
		増減	▲ 1,770万人	▲ 1,185億円	▲ 670億円	▲ 667億円	▲ 990億円	▲ 103億円		▲ 3,615億円
道外客		今回	211万人	309億円	463億円	327億円	227億円	93億円	10億円	1,429億円
		前回	607万人	1,266億円	1,295億円	866億円	690億円	179億円		4,296億円
		増減	▲ 396万人	▲ 957億円	▲ 832億円	▲ 539億円	▲ 463億円	▲ 76億円		▲ 2,867億円
外国人		今回	0万人	—	—	—	—	—	—	—
		前回	312万人	1,312億円	1,245億円	714億円	788億円	263億円		4,323億円
		増減	▲ 312万人	—	—	—	—	—	—	—
合計		今回	3,310万人	1,118億円	989億円	1,006億円	924億円	284億円	32億円	4,354億円
		前回	5,788万人	4,572億円	3,736億円	2,926億円	3,165億円	759億円		15,159億円
		増減	▲ 2,478万人	▲ 3,454億円	▲ 2,747億円	▲ 1,920億円	▲ 2,241億円	▲ 475億円		▲ 10,805億円

注）四捨五入の関係で各項目と合計値が一致しない場合がある。

■ 分野別観光消費額



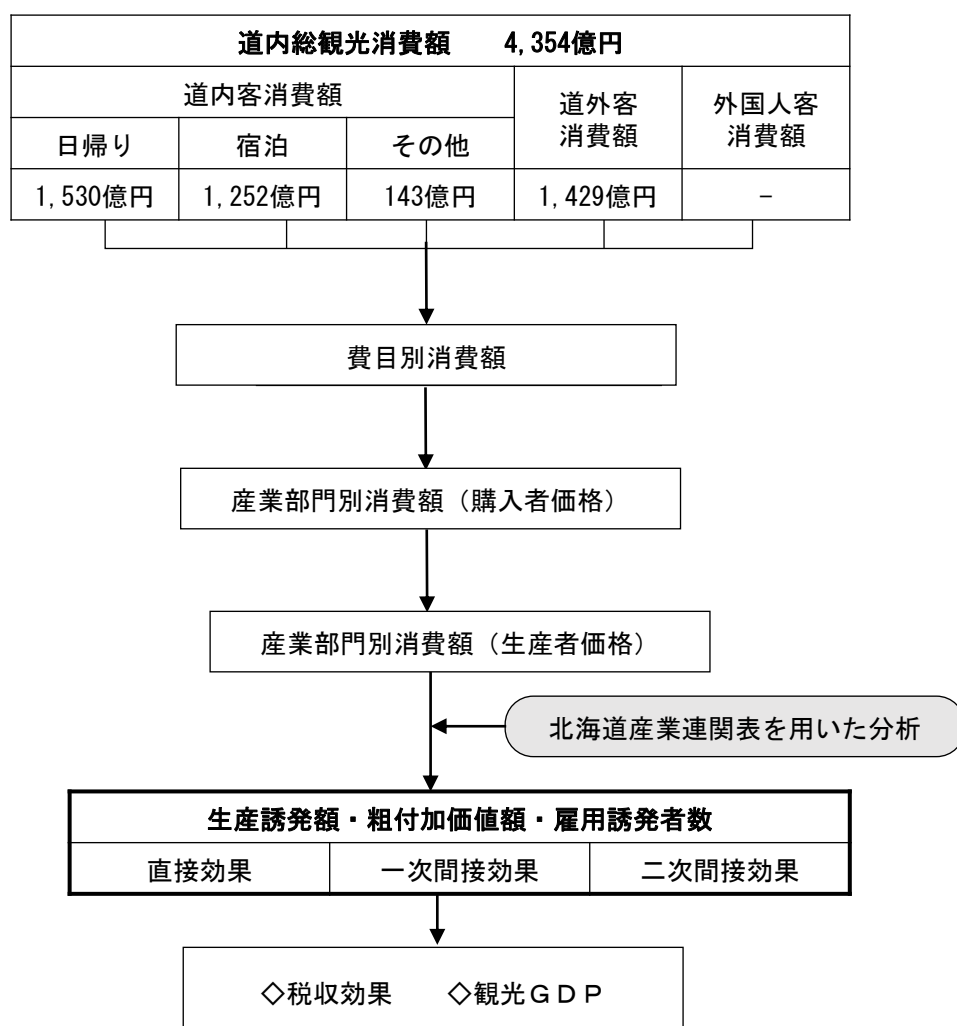
4 観光がもたらす経済波及効果の分析

（1）経済波及効果の推計方法

①推計の考え方

- 経済波及効果とは、ある産業部門（本調査では観光関連産業部門）に消費や投資（最終需要）が発生した時に、直接、間接的に多様な産業に次々と生産を誘発するとの考えに基づくものである。
- これまでの観光消費額、観光入込客数、観光総消費額を基に、下記のフローによって観光経済波及効果を推計した。
- 経済波及効果は①直接効果、②一次間接効果、③二次間接効果の3つからなり、これらが生み出す税収効果、雇用誘発者数などについても推計した。

■ 経済波及効果推計のフロー



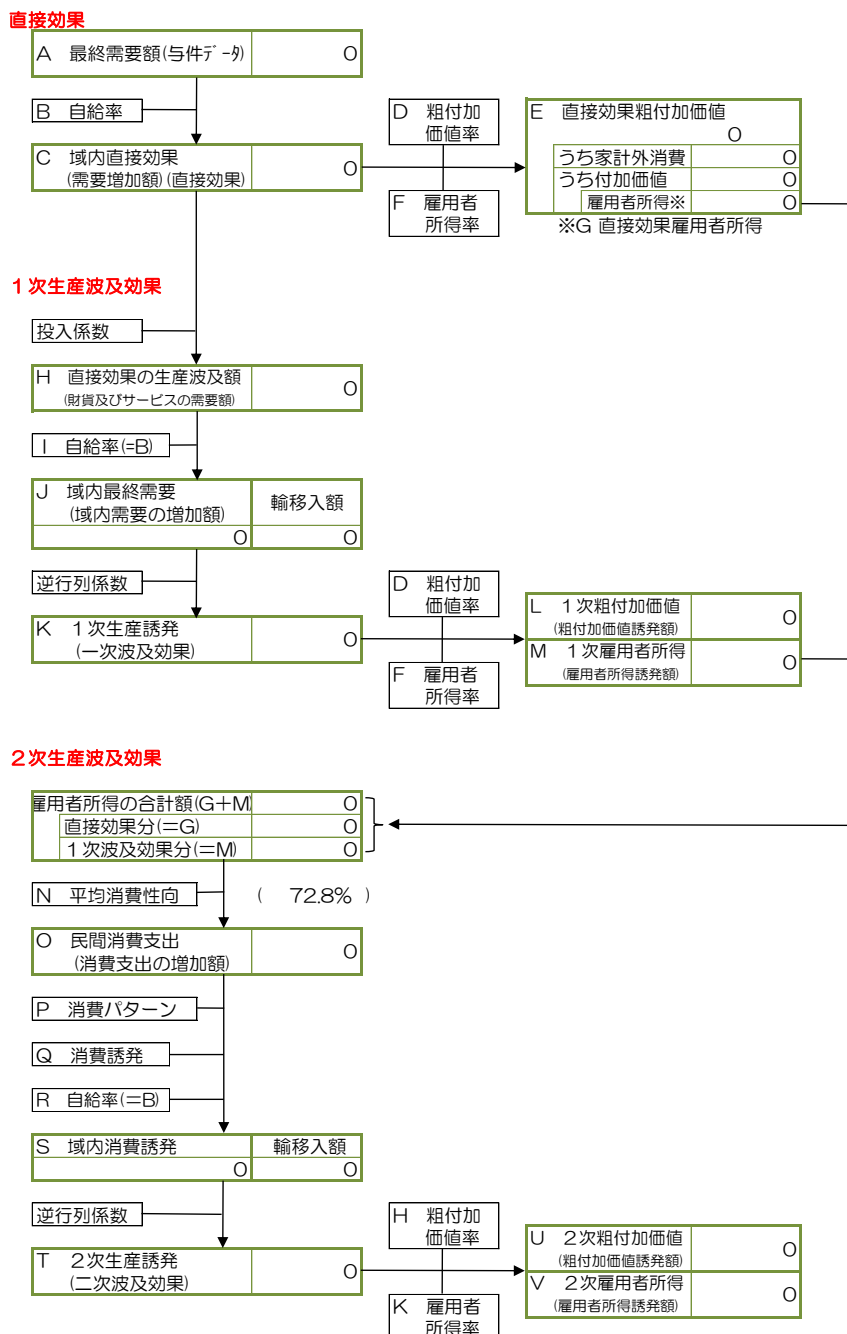
②推計モデル

- 当該推計においては『経済波及効果分析支援ツール』（平成24年度 北海道総合政策部計画推進局）を基に、一部を改修した独自のモデルを使用した。
- また、産業連関表は『北海道産業連関表』（平成23年北海道開発局）を用いている。
- 『経済波及効果分析支援ツール』における経済波及効果推計の出力形式、フローは下図のようなものである。

使用した推計システムは前回（2019年度）調査と基本的に同じであり、前回の緒元投入により、同数値が出現することを確認している。

■『経済波及効果分析支援ツール』における経済波及効果推計のフロー

（単位：百万円）



（２）経済波及効果の推計結果

①結果の要約

- 今年度各調査によって得られた観光総消費額 4,354億円による経済波及効果の推計結果は下表のように整理される。
- 経済波及効果（生産誘発額）は、6,364億円と推計された。（観光消費総額に対する乗数効果は1.46）
- 観光消費により生じる生産活動において発生する「直接効果」は3,658億円、さらに道内の生産やサービス活動に波及する「第一次波及（間接）効果」は1,351億円となる。
- さらに、新たな雇用者所得等の増加によって生み出される「第二次波及（間接）効果」が1,356億円と推計された。

■観光による経済波及効果の要約

	今回	前回
経済波及効果	636,412百万円発生	2,191,044百万円発生
観光GDP	227,613百万円押し上げ	781,409百万円押し上げ
雇用者（新規雇用者誘発数）	61,850人／年	210,111人／年
税収効果	16,137百万円	60,642百万円

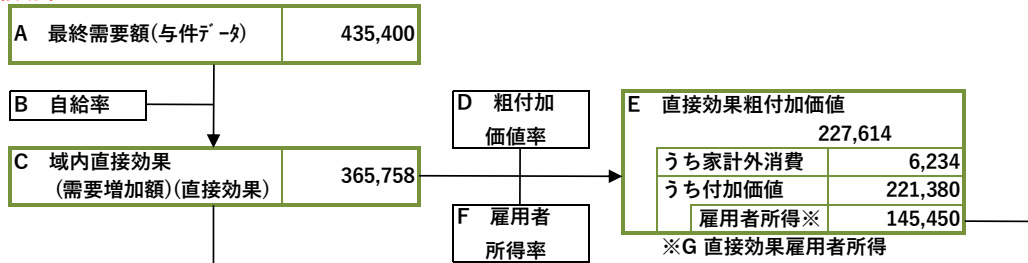
		直接効果	1次波及効果	2次波及効果	合計
生産誘発額 （百万円）	今回	365,758	135,102	135,552	636,412
	前回	1,259,187	468,948	462,909	2,191,044
	増減	▲ 893,429	▲ 333,846	▲ 327,357	▲ 1,554,632
粗付加価値 （百万円）	今回	227,613	75,410	83,737	386,760
	前回	781,409	262,174	285,960	1,329,543
	増減	▲ 553,796	▲ 186,764	▲ 202,223	▲ 942,783
所得誘発額 （百万円）	今回	145,451	37,959	37,129	220,539
	前回	494,321	132,018	126,794	753,133
	増減	▲ 348,870	▲ 94,059	▲ 89,665	▲ 532,594
雇用誘発数 （人）	今回	41,292	10,301	10,257	61,850
	前回	139,350	35,734	35,027	210,111
	増減	▲ 98,058	▲ 25,433	▲ 24,770	▲ 148,261
税収効果 （百万円）	今回	10,474	2,863	2,800	16,137
	前回	38,798	11,128	10,716	60,642
	増減	▲ 28,324	▲ 8,265	▲ 7,916	▲ 44,505

注）四捨五入の関係で各項目と合計値が一致しない場合がある。

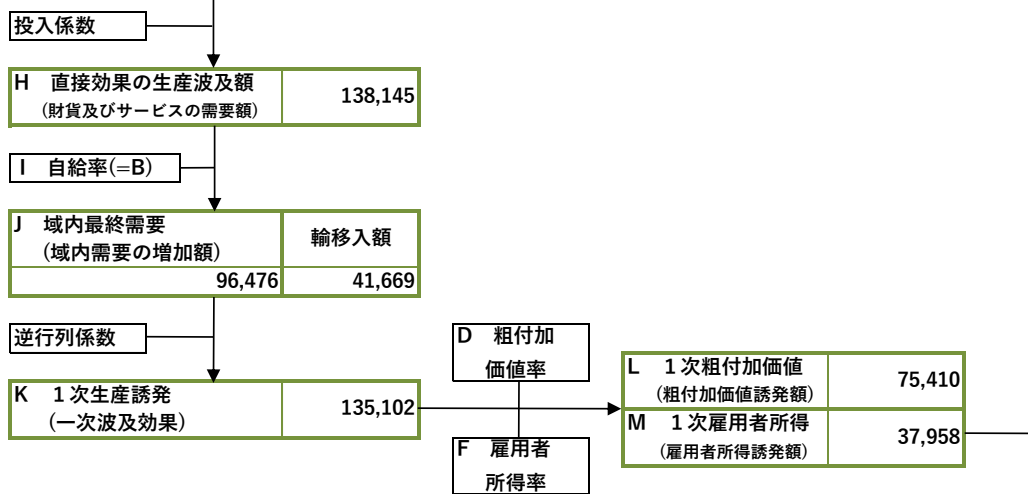
■観光による経済波及効果のフロー

(単位：百万円)

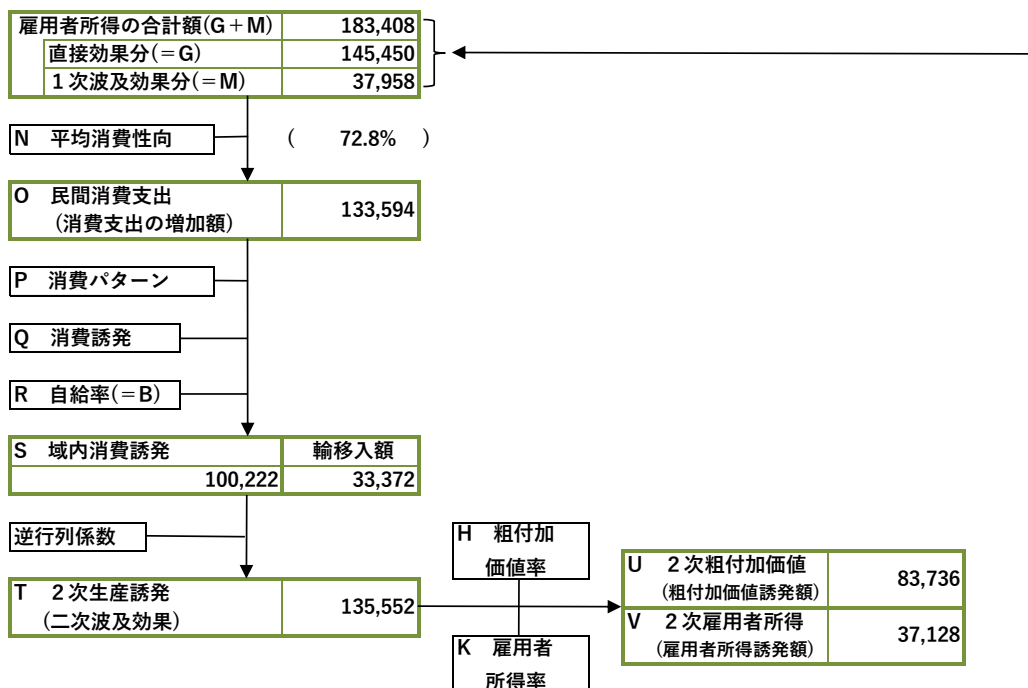
直接効果



1次生産波及効果



2次生産波及効果



(注)端数処理の関係で、各項目の合計値と合計項目の値が一致しない場合がある。
同様に、他の表の値と一致しない場合がある。

②生産誘発額

- 経済波及効果（生産誘発額）は、6,364億円と推計され、その内訳は①道民/道内容（4,224億円）、②道外客（2,140億円）の発生で構成される。

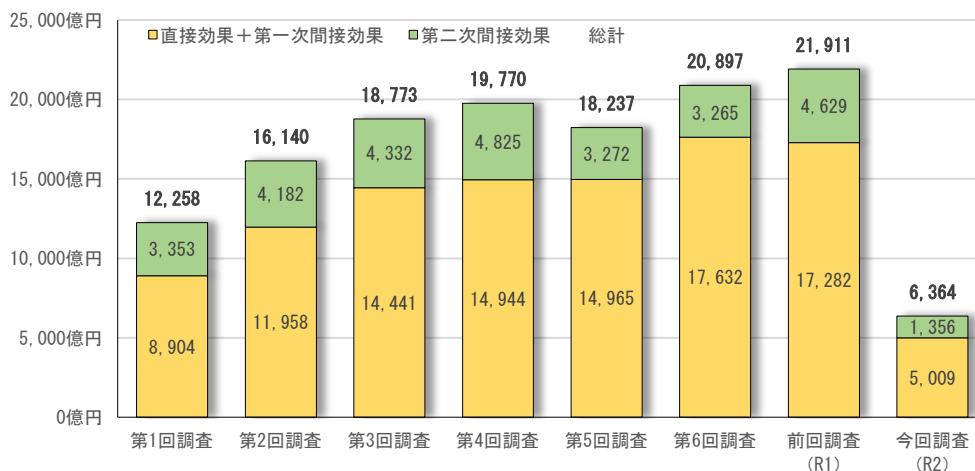
生産誘発額は前回R1年度調査（2兆1,911億円）から大幅な減少となっているが、コロナ禍という歴史的な特殊状況にあるため、時系列的な増減についての視点は有すべきではないと考える。

■観光消費による生産誘発額のフロー

総観光消費額	道内容 (日帰り・宿泊・他計)	道外客	外国人客
4,354億円	2,925億円	1,429億円	-
↓			
直接効果	道内容 (日帰り・宿泊・他計)	道外客	外国人客
観光消費による 直接効果 3,658億円	2,429億円	1,229億円	-
↓			
第一次間接効果	道内容 (日帰り・宿泊・他計)	道外客	外国人客
観光消費による 第一次間接効果 1,351億円	899億円	452億円	-
↓			
第二次間接効果	道内容 (日帰り・宿泊・他計)	道外客	外国人客
観光消費による 第二次間接効果 1,356億円	896億円	460億円	-
↓			
生産誘発額 合計	道内容 (日帰り・宿泊・他計)	道外客	外国人客
観光消費による 生産誘発額 6,364億円	4,224億円	2,140億円	-

注）道内客分は観光（日帰り・宿泊）と「その他の旅行」を合計した値で表記している。
四捨五入の関係で各項目と合計値が一致しない場合がある。

■観光消費による生産誘発額の推移（参考）

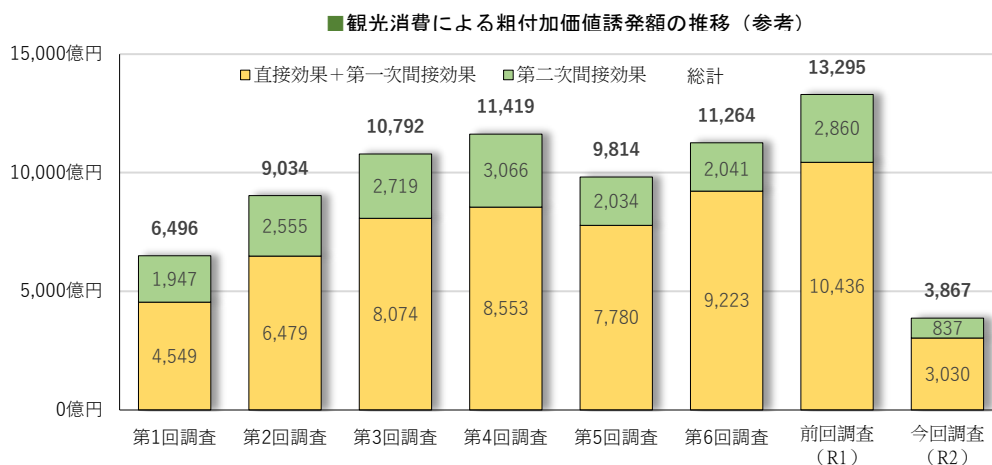


③粗付加価値誘発額

- 前項の生産誘発額（6,364億円）がもたらす粗付加価値誘発額は3,867億円と推計され、その内訳は道民/道内客（2,571億円）、道外客（1,296億円）で構成される。



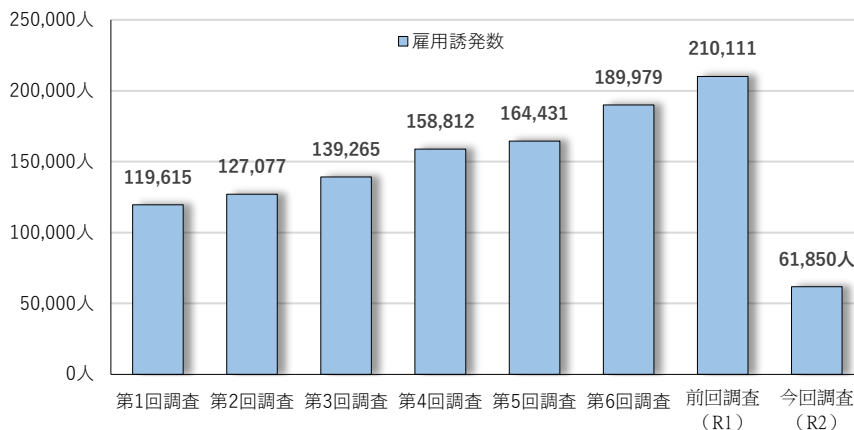
注）道内客分は観光（日帰り・宿泊）と「その他の旅行」を合計した値で表記している。
四捨五入の関係で各項目と合計値が一致しない場合がある。



④雇用誘発効果

- 6,364億円の生産誘発額は、61,850人/年の新規雇用者を誘発すると推計されたが、前回調査に比べると大幅な減少であり、実体経済において「観光産業の雇用調整」が進んでいるという現実もふまえれば、この推計は参考値に留めるべきものとする。

■ 観光消費による雇用誘発数の推移



雇用誘発数	
直接効果	41,292人
1次波及効果	10,301人
2次波及効果	10,257人
合計	61,850人

⑤税収効果

- 6,364億円の生産誘発額により、道・市民税（個人・法人）合わせて161億円の税収効果を生み出すものと推計されたが、昨年調査（606億円）の1/4程度に留まる大幅な減収が見込まれる。

■ 観光消費がもたらす税収効果

		税収係数	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	計
道税	個人	4.0%	3,775	992	967	5,734
	法人	1.0%	414	153	154	721
	計		4,190	1,145	1,120	6,455
市町村民税	個人	6.0%	5,663	1,488	1,450	8,601
	法人	1.5%	621	230	230	1,081
	計		6,284	1,718	1,680	9,682
合計	個人		9,438	2,480	2,416	14,335
	法人		1,036	383	384	1,802
	計		10,474	2,863	2,800	16,137

個人の道民総合課税率は所得割総合課税の道民税4%、市町村民税6%を採用している。

法人の道税は資本金が1億円以下の法人で法人税額が1,000万円以下の令和元年（2019年）10月1日以後に開始する事業年度の税率1.0%を用いている。

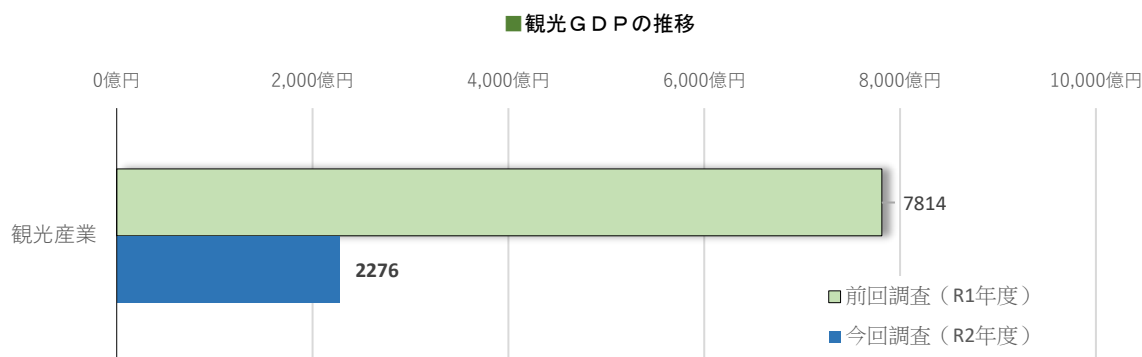
法人の市町村民税は年間800万円以下の法人税率15%に平成26年度10月1日以降の開始事業年度の税率9.7%を乗じて約1.5%としている。

⑥観光GDPの推計

- 6,364億円の生産誘発額のうち、直接効果（3,658億円）は2,276億円（直接効果による粗付加価値額）の観光GDPを生み出す。
- これは、平成30年度の道内総生産（名目GDP=約19.7兆円）の1.2%に相当する。前回調査では平成29年度の道内総生産（名目GDP=約19.4兆円）の4%程度であったことからみると、コロナ禍における観光産業のダメージの大きさが分かる。
- 平成30年度の他の主要産業GDPと今回調査（令和2年度）の観光GDPと比べると、食料品製造業（6,947億円）や農業（6,394億円）、金融・保険業（6,758億円）、電気・ガス・水道業（6,629億円）などを大きく下回ることとなった。

※「観光GDP」（Tourism Gross Domestic Product）は北海道庁が第6回調査で定義した『観光客が購入した財・サービスの付加価値額であることから、直接効果による粗付加価値誘発額として求めた』に準拠している。

※他産業のGDPは道民経済計算に基づくが、これらの数値は3年後に公表（現時点の最新数値は平成30年度計算）される予定である。このため、本調査における「観光GDP」との間にはタイムラグがあることに留意下さい。



（参考）

■ 道内総生産及び他産業の道内総生産（平成30年度）

平成30年度道内総生産 名目 19兆6,528億円

